



九州歯科大学同窓会主催

令和2年度 学術講演会

ライブ講演 / オンライン講演 併催

歯髓・歯牙保存の最前線

講演抄録

従来の基準では抜髄適応と思われるケースにおいてもMTAを覆髄材として用いると、予後良好のまま経過するケースが多く見られるようになりました。これはMTAの封鎖性と修復象牙質の形成能が従来の覆髄材よりはるかに高い事によります。さらに歯髓が一部感染しているケースにおいても、その感染している歯髓のみを可及的に除去し、MTAで覆髄する事で残った歯髓を保存する事すら可能になってきました。しかし直接覆髄にしても間接覆髄にしても、感染している軟化象牙質を可及的に除去しなければ成功は期待できません。歯髓を保存する事は歯牙保存のステップの第一歩です。

また、従来肉眼で治療をしていた時には治療が困難であった難治性根尖性歯周炎においても、CBCTによる術前の診断とマイクロスコープで根管内の状態を直接見ることによってなぜ治らないのか、その原因が分かって来ました。さらに複雑で様々な形態をしている3次元的な根管内に残留する感染源を、直接目で見て除去できるインストゥルメント「OKマイクロエキスカ」と感染源を除去した後の根管を確実に封鎖できる新時代の歯科用セメント「MTA」を用いる事で治療へと導く事が可能になってきました。難治性となっている原因を特定してその原因に直接アプローチする事により、最善の治療結果をもたらすことが出来ると思います。

これら今までの治療では成し得なかった歯髓保存、歯牙保存の術式はCBCTによる術前の確かな診断と、マイクロスコープを用いた拡大視野下での処置によって初めて成り立つものであると考えています。

今回、通常の治療では保存が困難であると思われる歯髓の保存や難治性の感染根管治療など、私が実際行っている臨床症例を、動画を交えてお話させていただきます。歯髓保存、歯牙保存の最前線のキーポイントが明日からの臨床にご活用頂ければ幸いです。



おか ぐち もり お

講師 **岡口 守雄** 先生
(岡口歯科クリニック)

略歴

1976年 明治大学政治経済学部経済学科卒業
1986年 岩手医科大学歯学部卒業
1993年 東京都千代田区にて開業

所属

日本臨床歯科学会東京支部(東京SJCD)理事
マイクロスコープインストラクター
日本顕微鏡歯科学会理事
関東歯内療法学会理事
日本顎咬合学会指導医
カールツァイス公認マイクロスコープインストラクター
AMED(academy of microscope enhanced dentistry)会員

令和3年

日時

4月4日(日)

会費

- 歯科医師 7,000円
- コ・デンタルスタッフ 3,500円
(事前申込のみ、当日申込はございません)

9:00~13:00 (8:30 受付開始)

ライブ講演

九州歯科大学 本館 501講義室にて

定員 25名(先着順)

オンライン講演

Zoom Webinarにて

定員 なし

申込方法は裏面をご覧ください